

平成29年度

# 学校評価集計・分析

鹿児島県立指宿高等学校

# 1- 教務部集計結果

総合判定 合算(A+B)

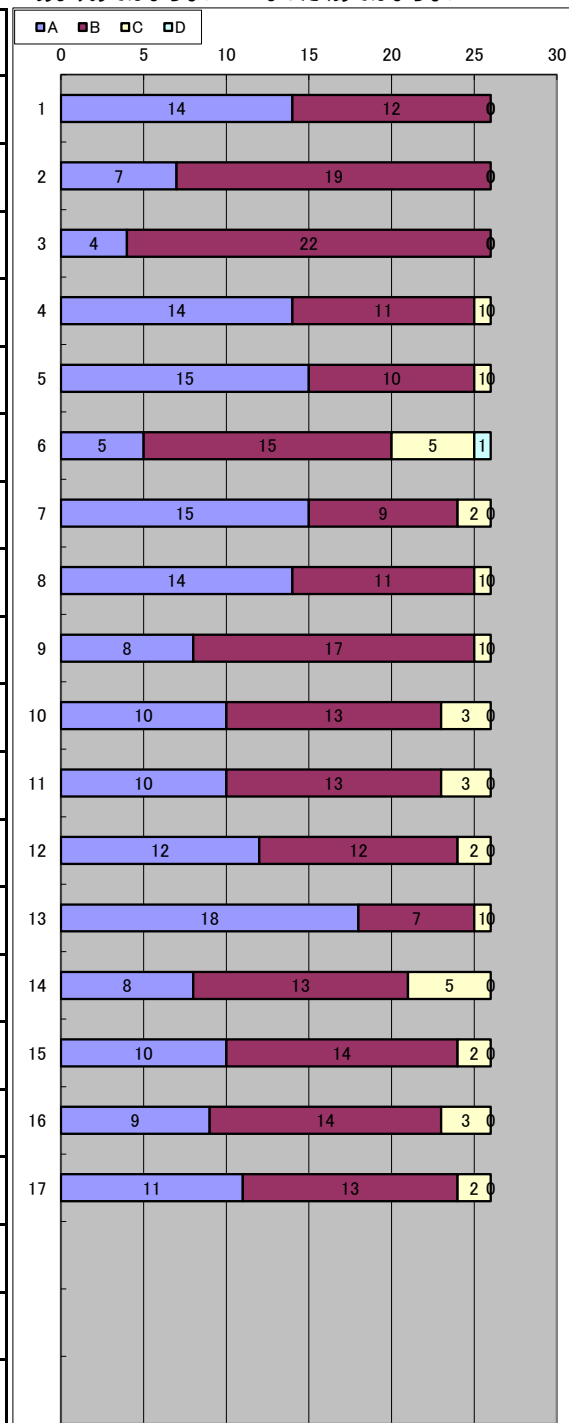
◎=80%以上 △=79~50% ×=49%以下

A=よくあてはまる

B=ややあてはまる

C=あまりあてはまらない D=まったくあてはまらない

番号	診断項目	回答数(人)				総合判定
		A	B	C	D	
1	教育目標は、学校の実態に即した目標が適切に設定されている。	14	12	0	0	◎
2	生徒や保護者に対して教育目標や重点を分かりやすく示している。	7	19	0	0	◎
3	学校全体の校務が円滑に推進できるよう、分掌相互の連携が図られている。	4	22	0	0	◎
4	全体朝礼・儀式等は、効率よく計画され円滑に実施されている。	14	11	1	0	◎
5	生徒の個性を伸ばし、進路希望の実現に結びつく教育課程を編成している。	15	10	1	0	◎
6	行事の精選や時間割変更などにより、授業確保の努力がなされている。	5	15	5	1	△
7	生徒一人一人の習熟度に応じた指導法の研究がなされている。	15	9	2	0	◎
8	研究授業など教職員相互の研究を推進している。	14	11	1	0	◎
9	考査問題の作成および結果についての相互検討の推進と、それに基づく事後指導の徹底が図られている。	8	17	1	0	◎
10	「総合的な学習の時間」は、そのねらいを達成するための計画・実践がなされ、時数が確保されている。	10	13	3	0	◎
11	学校の伝統・校風を大切にしながら、特色ある学校行事の創意工夫を行っている。	10	13	3	0	◎
12	学校と保護者が連携し、協力体制が図られている。	12	12	2	0	◎
13	PTA活動が活発に行われ、学校もその活動を積極的に支援している。	18	7	1	0	◎
14	中学校や地域・関係機関等との連携に向けて、具体的な取り組みが行われている。	8	13	5	0	◎
15	保護者や地域の意見を聞き、その信頼と期待に応じていこうと努めている。	10	14	2	0	◎
16	パソコンによる校務処理により、データの共有化と職務の効率化が図られている。	9	14	3	0	◎
17	様々な教育課題を踏まえた校内研修が計画・実施されている。	11	13	2	0	◎



# 学校評価集計結果の分析・考察及び改善策の検討

平成29年度

## 教務部

### 1. 集計結果の分析・考察

1項目が△で、それ以外の項目においては◎であった。(昨年はすべての項目が◎)

全員がA・Bと評価したのは、以下3項目である。(昨年は3項目)

1. 「教育目標とその設定」
2. 「教育目標と重点項目の提示」
3. 「校務分掌の相互連携」

ただし、3については、Aと評価したのは4人と少ない。

1・7・8は昨年に引き続いての高評価であった。授業方法や内容について、教職員同士お互いに意見交換できる雰囲気があるからであろう。また、13「PTA活動と連携」についても、高評価であった。

それに対して、Cの評価がいくらか(5人)あったのは、以下の項目である。

6. 「行事の精選による授業確保の努力」
14. 「中学校や地域との連携に向けての具体的取り組み」

6についてはAの評価も少なかった。

学年3クラス規模の小規模校で、職員一人一人の仕事量が多くなり、多忙な校務の中ではあるが、地域・中学校・保護者の声に耳を傾け、期待と信頼に応える具体的な取り組みが必要であろう。

### 2. 改善策及び今後の在り方・方向性等

改善策の記入欄でのコメントは以下の通り。

「中学校への発信として、学校紹介のDVDなどを作成してみても、どうでしょうか。

そのDVDを中学校の昼休みなどに希望者に観てもらえるなどはどうでしょうか。」

「日々放課後の時間が少なく、生徒に感想文を書かせることが多い。授業確保はできているが1日の勤務時間をめいっぱい埋められている気がする。」

「校務分掌の相互連携」については、各分掌の引き継ぎをしっかりと、それぞれが、業務内容を把握する必要がある。各分掌のマニュアルを作成する必要性があるのではとも思う。

「行事の精選による授業確保の努力」については、早めの行事日程の作成に努め、各分掌からの視点による行事の精選を行う必要があると感じる。

「中学校や地域との連携に向けての具体的取り組み」については、募集定員の確保が指宿高校の大きな課題だと考える。このことは職員一丸となって推し進めていく必要がある。

活力ある学校作りを進めるとともに、保護者や地域・中学校や関係機関との連携を密にしていくことは、募集定員の確保にもつながる。保護者や地域との互恵関係が築ければ、部活動や学習面でも指宿高校にとってプラスにの効果が働くと思われる。

## 2- 生徒指導部集計結果

総合判定 合算(A+B)

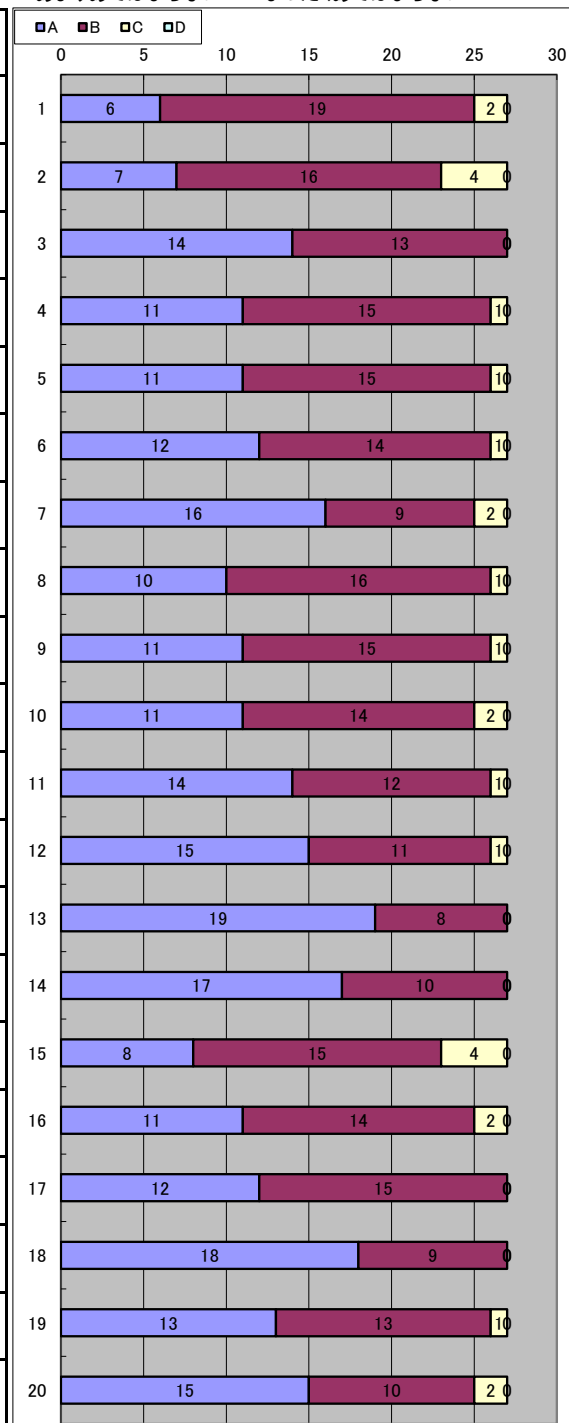
◎=80%以上 △=79~50% ×=49%以下

A=よくあてはまる

B=ややあてはまる

C=あまりあてはまらない D=まったくあてはまらない

番号	診断項目	回答数(人)				総合判定
		A	B	C	D	
1	校内分掌は、学校の実情や基本方針に応じて人員が配置されている。	6	19	2	0	◎
2	「生徒指導は全職員で行う」という共通理解と指導体制が確立されている。	7	16	4	0	◎
3	命の大切さや人権を尊重する心(いじめに関する教育)など、豊かな心を育てる努力をしている。	14	13	0	0	◎
4	日頃から、問題行動や事故等を未然に防ぐための安全確保に努めている。	11	15	1	0	◎
5	地域社会から本校が信頼を得ているか確認し、「魅力ある学校づくり」を目指し、学校の活性化に努めている。	11	15	1	0	◎
6	生徒の基本的な生活習慣の確立を図るとともに社会規範を遵守できる自律心と礼儀作法を育成している。	12	14	1	0	◎
7	諸活動を通し、自主的活動を引き出すとともに、学校生活に目標を持たせ、中途退学の未然防止に努めて	16	9	2	0	◎
8	教師の資質向上や実践的指導力を養うとともに、学校の活性化につながる研修を企画・実施している。	10	16	1	0	◎
9	きめ細かな教育相談の研究と実践が行われており、問題がみられる生徒にはよく意思疎通を図り、的確に	11	15	1	0	◎
10	全体集合時等機敏に行動し、私語をしない態度の育成がなされている。	11	14	2	0	◎
11	部活動と学業との両立を目標として、日常的に生徒と交流を図り、学校活性化に役立っている。	14	12	1	0	◎
12	生徒会役員(執行部・HR委員等)にリーダーとして自覚と責任を持たせ、生活や行事に意欲的に取り組ませ	15	11	1	0	◎
13	校内・校外巡回指導を必要に応じて実施し、生徒の問題行動防止に努めている。	19	8	0	0	◎
14	登下校指導・躰指導・服装指導等を通して、あいさつの励行や交通安全指導を行っている。	17	10	0	0	◎
15	生活のリズムが整っていない生徒を対象に、自学自習や過ごし方等を指導している。	8	15	4	0	◎
16	職員間の連絡を密にしなが、生徒とコミュニケーションを図り、円滑な学校生活に積極的に取り組んでい	11	14	2	0	◎
17	読書の勧めと有効な図書を整備・活用がなされており、図書館がさまざまな情報収集の場となっている。	12	15	0	0	◎
18	掲示板や図書館だよりを通じて新刊案内等の情報発信に取り組んでいる。	18	9	0	0	◎
19	家庭および関係機関・団体等との綿密な連携による校外指導が徹底されている。	13	13	1	0	◎
20	生徒の健全育成に向け、PTAと地域社会と連携し、その教育力を活用した取組が行われている。	15	10	2	0	◎



# 学校評価集計結果の分析・考察及び改善策の検討

平成29年度

## 生徒指導部

### 1. 集計結果の分析・考察

- ・昨年同様、20項目診断のうち、20項目全てで総合判定が◎であった。  
しかし、C：あまりあてはまらない、D：まったくあてはまらないと答えた数が延べ26人であった。(昨年度20人、一昨年度26人)
- ・A：よくあてはまると答えた評価が過半数を超えた項目が、3「命の大切さや人権を尊重する心（いじめに関する教育）など、豊かな心を育てる努力をしている」7「諸活動を通し、自主的活動を引き出すとともに、学校生活に目標を持たせ、中途退学の未然防止に努めている」11「部活動と学業との両立を目標として、日常的に生徒と交流を図り、学校活性化に役立っている」12「生徒会役員（執行部・HR委員等）にリーダーとして自覚と責任を持たせ、生活や行事に意欲的に取り組ませている」13「校内・校外巡回指導を必要に応じて実施し、生徒の問題行動防止に努めている」14「登下校指導・躰指導・服装指導等を通して、あいさつの励行や交通安全指導を行っている」18「掲示板や図書館だよりを通じて新刊案内等の情報発信に取り組んでいる」20「生徒の健全育成に向け、PTAと地域社会と連携し、その教育力を活用した取り組みが行われている」
- ・A：よくあてはまる、B：ややあてはまるの回答のみの項目は、上記の3131418意外に17「読書の勧めと有効な図書の整備・活用がなされており、図書館がさまざまな情報収集の場となっている」の5項目だった。(昨年度9項目、一昨年度5項目)
- ・D：まったくあてはまらないの回答はなかった。(昨年度も0、一昨年度7項目)
- ・昨年度と比較して、AとBのみの回答が9項目から5項目に減ってはいるが、Dの回答が昨年同様なかった事は、大きな変化はみられなかったと思われる。

### 2. 改善策及び今後の在り方・方向性等

- ・C：あまりあてはまらないが4名いた2「生徒指導は全職員で行う、という共通理解と指導体制が確立されている」や15「生活のリズムが整っていない生徒を対象に、自学自習や過ごし方を指導している」、また、Aの回答が一桁だった上記の2つ以外の1「校務分掌は、学校の実情や基本方針に応じて人員が配置されている」の3つの項目に関しては、来年度に向けて職員の意見を出し合い少しでも改善されるようにしていく必要がある。
- ・生徒指導上の問題行動でSNSへの書き込みは、今後も起こりうる可能性があるもので、年間を通しての指導が必要と思われる。
- ・男女交際等、健全な高校生活を送るための講話・指導なども必要と思われる。
- ・あいさつや時間を守る等の基本的習慣は少しの気の緩みから崩れやすいものであるから、常日頃から生徒・職員全員で意識していかなければならないと思う。

### 3- 進路指導部集計結果

総合判定 合算(A+B)

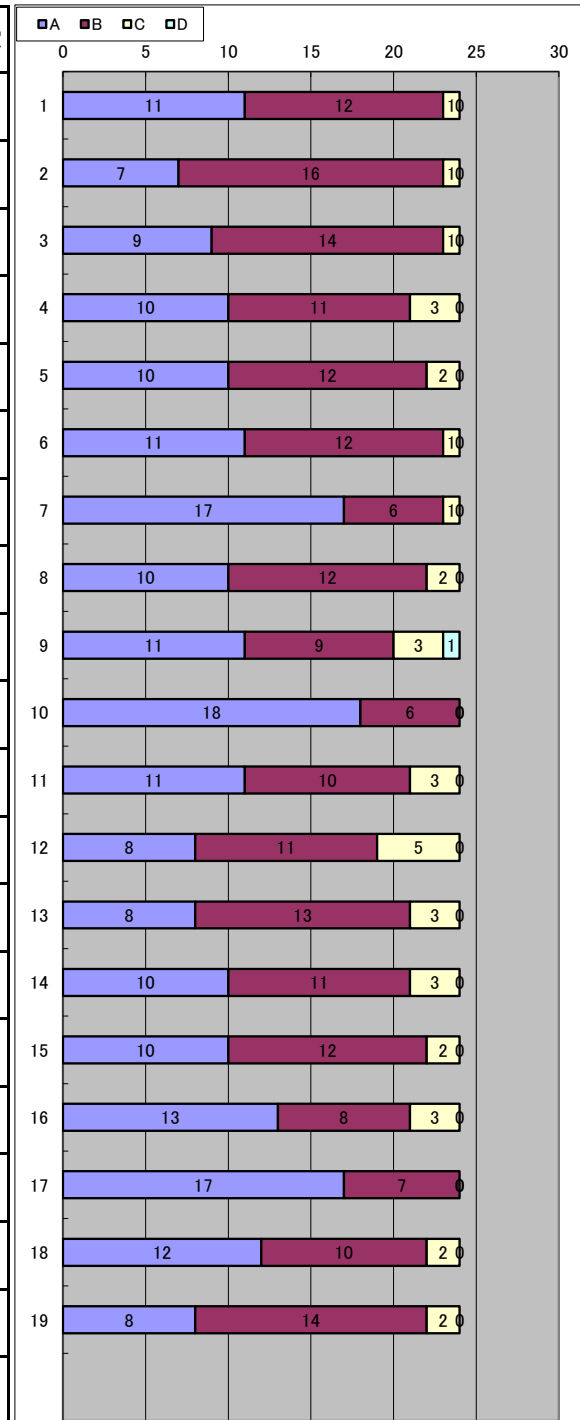
◎=80%以上 △=79~50% ×=49%以下

A=よくあてはまる

B=ややあてはまる

C=あまりあてはまらない D=まったくあてはまらない

番号	診断項目	回答数(人)				総合判定
		A	B	C	D	
1	個性・能力の啓発と、それに基づく進路の早期決定をはかり、進路目標を確立させている。	11	12	1	0	◎
2	学級担任・教科担任間の緊密な連携により、生徒の個性・能力の総合的な把握を推進している。	7	16	1	0	◎
3	学年間の連携により、段階を踏まえた指導計画・指導体制を確立している。	9	14	1	0	◎
4	進路指導資料の整備をし、進路情報を計画的に提供している。	10	11	3	0	◎
5	自主的な学習姿勢を育て、進路実現を進める進路体制を確立している。	10	12	2	0	◎
6	各係が仕事を分担し、積極的に生徒を指導し、的確な進路指導を目指している。	11	12	1	0	◎
7	朝課外の30分間は、有効に活用できている。	17	6	1	0	◎
8	宅習課題の適正化の研究・実施と宅習習慣の定着指導がなされている。	10	12	2	0	◎
9	夏季・冬季の課外は、現在の日数が適当である。	11	9	3	1	◎
10	列車通学生にとって、朝課外の開始時刻は現在のままでよい。	18	6	0	0	◎
11	土曜学習は、進路志望実現のための学力向上に役立っている。	11	10	3	0	◎
12	進路講演会は各学年に応じた進路指導に役立っている。	8	11	5	0	△
13	公務員・就職希望の生徒のための指導が適切に行われている。	8	13	3	0	◎
14	対外模試は、生徒の学力の把握、また生徒の学力向上に役立っている。	10	11	3	0	◎
15	小論文模試は、学力向上に役立っている。	10	12	2	0	◎
16	実力考査は、生徒の学力向上、生徒の学力把握に役立っている。	13	8	3	0	◎
17	3年生の視聴覚室での自学自習は、しっかり行われている。	17	7	0	0	◎
18	合格体験記は、1・2年生の進路指導に役立っている。	12	10	2	0	◎
19	生徒への進路指導は、保護者によく理解されている。	8	14	2	0	◎



# 学校評価集計結果の分析・考察及び改善策の検討

平成29年度

## 進路指導部

### 1. 集計結果の分析・考察

#### 1. 進路指導部集計結果より

12 進路講演会の項目以外はすべて◎（昨年度はすべて◎）。

- ・前年と比較して高評価が多い（特に朝課外関係，実力考査，3年生の自習）
- ・評価が下がった項目もある（担任教科担連携，講演会，模試，公務員指導）
- ・長期休業日の補習を休養日や部活動にあてては。（1・2年の年明け）
- ・進路情報を時期に合わせたものにできないか。
- ・朝課外の遅刻者が増えた。指導の徹底が必要。
- ・進路講演会が多すぎる。（精選）
- ・模試の日程について検討の必要あり。（3年10月記述）

#### 2. 保護者評価集計結果より

進路指導部に関するもの【項目11～15】 すべてで◎

- ・1学年の15「学習と部活動の両立」は毎年△だったが，今年は◎。全学年での評価は昨年並みだが，A評価は増えている。
- ・11～14の項目は，学年によりAとBの割合が大きく異なる。2年の評価が低い。

#### 3. 生徒自己評価集計結果より

進路指導部に関するもの【項目2，7，12，13，14，18，19，21】

- ・2「各種の講演会」，7「先生からの適切なアドバイス」，18「指導法や課題の工夫」，19「課題は適切」，21「授業のけじめ」は各学年とも高評価
- ・12「宅習やノートのと리카た，利用の工夫」については，3学年のみ◎
- ・13「授業に意欲的に臨み」においては，全学年◎。予習・復習をして…の記載を削除した。どの学年も授業への取り組みへの自己評価は高い。
- ・14「進路指導資料の活用」においては，1学年のみ×，他は△

### 2. 改善策及び今後の在り方・方向性等

#### 1. 進路指導部集計結果に対して

##### ① 講演会の精選

→総合的な学習の時間に入れるなど体系的に実施する。はやめに年間計画を行う。

##### ② 課題の量の調整（平日・週末・長期休暇）

→平日の課題均等化に向け，各教科で更に課題等を工夫する。

##### ③ 土曜学習・長期休業中の補習について

→テスト前の土曜学習，年明けの1・2年生の補習について検討する。

#### 2. 保護者評価集計結果に対して

「学習と部活動との両立」「学習内容及び課題の量」に関しては，毎年評価が低い。各教科でより一層課題の精選，課題未提出者への指導や追試のあり方を工夫し，放課後など部活動等に打ち込める環境づくりをする。

#### 3. 生徒自己評価集計結果に対して

##### ① 学習の工夫

12「宅習やノートのと리카た，利用の工夫」については，他の質問から授業に積極的に取り組んでいる生徒が多いことは分かるので，質問の仕方を変えるか，具体的にどの科目でうまくいっていないのか具体的に記述させたらよいのではないか。

##### ② 学校の進路情報資料

LHR等を利用して生徒に実際に来室させたり，説明したりしている。また，自習や教え合いで進路資料室を活用できているので，今まで通り進めていく。

#### 4-1 保健部集計結果

総合判定 合算(A+B)

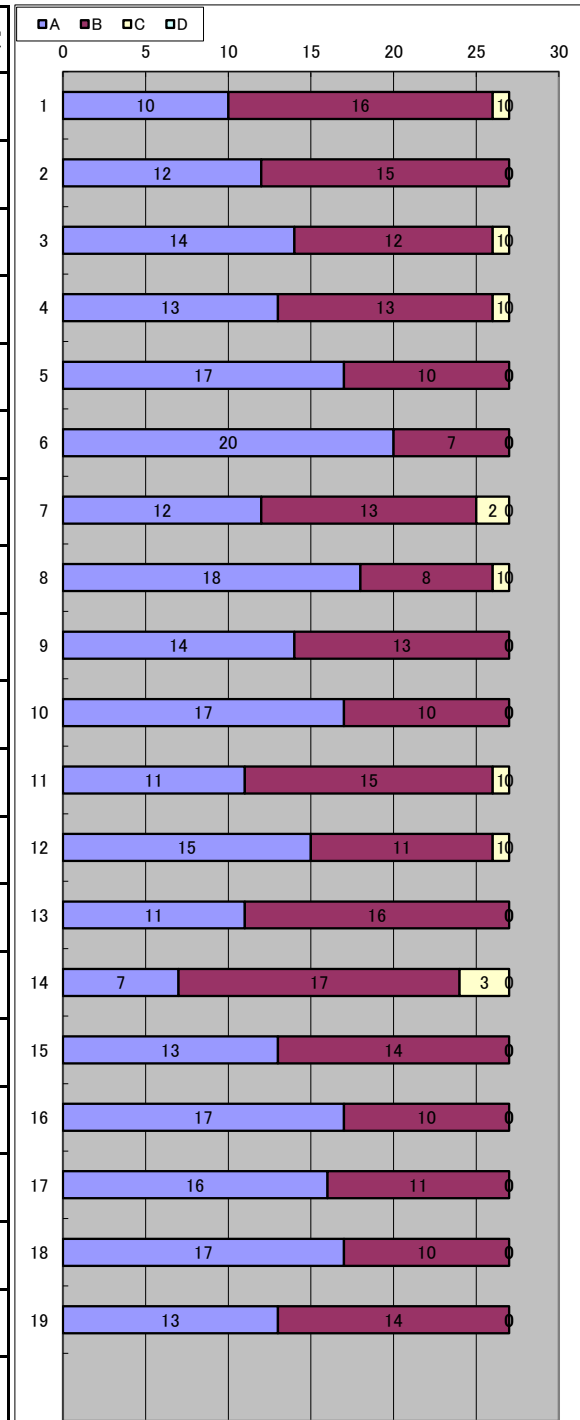
◎=80%以上 △=79~50% ×=49%以下

A=よくあてはまる

B=ややあてはまる

C=あまりあてはまらない D=まったくあてはまらない

番号	診断項目	回答数(人)				総合判定
		A	B	C	D	
1	保健行事や保健指導内容を綿密に計画し、保健部全体がスムーズに運営されている。	10	16	1	0	◎
2	各部や各委員会との連携を図り、学校全体で生徒の健康教育推進に取り組んでいる。	12	15	0	0	◎
3	学校保健委員会や生徒保健委員会は積極的に活動し、健康教育推進に取り組んでいる。	14	12	1	0	◎
4	保護者及び医療及び他の関係機関との連携強化が図られている。	13	13	1	0	◎
5	健康診断の確実な実施、実態の把握、事後指導が適切になされている。	17	10	0	0	◎
6	保健室来訪者や生活実態調査などにより悩みを抱える生徒の実態を把握し、適切な「心のケア」ができてい	20	7	0	0	◎
7	栄養・睡眠など基本的な生活習慣の指導を行い、実践に努めさせている。	12	13	2	0	◎
8	生徒指導部と連携し、喫煙防止及び薬物乱用防止の啓発がなされている。	18	8	1	0	◎
9	行事や体育の授業において、集団行動の指導に取り組んでいる。	14	13	0	0	◎
10	体育の授業や体育的学校の行事を通して、運動技能や体力の向上が図られている。	17	10	0	0	◎
11	生徒の自主性を生かした体育的行事が行われている。	11	15	1	0	◎
12	人権尊重の視点に立ち、保健・安全指導に努めている。	15	11	1	0	◎
13	生徒職員が一体となり、校内の美化に努めている。	11	16	0	0	◎
14	生徒職員が一体となり、塵の分別収集に努めている。	7	17	3	0	◎
15	清掃用具の管理は適切に行われている。	13	14	0	0	◎
16	防火防災の訓練は綿密な計画のもと、的確に行われている。	17	10	0	0	◎
17	災害などに対する危機意識向上のための指導が適切に行われている。	16	11	0	0	◎
18	毎月の安全点検が確実にされ、早急でかつ的確な対応がなされている。	17	10	0	0	◎
19	公共物の使用の指導やサイクルに努めるなど、環境保全率先実行計画を推進している。	13	14	0	0	◎





# 学校評価集計結果の分析・考察及び改善策の検討

平成29年度

## 保健部

### 1. 集計結果の分析・考察

- 1 昨年度に引き続き,今年度も19項目すべて総合判定が◎で良い評価であった。特に次の11項目は総合判定(A+B)100%で高い評価であった。  
◎良い評価が得られた項目は次の11項目であった。
  - ・項目(2,5,6)保健行事や健康診断,保健指導が計画どおり実施できている。
  - ・項目(9,10)体育の授業や部活動を通して集団行動の指導や運動技能,体力向上が図られている。
  - ・項目(13)生徒職員が一体となり校内美化に努めている。
  - ・項目(15)清掃用具の管理が適切に行われていた。
  - ・項目(16,18)防火防災訓練,安全点検が的確にできた。
  - ・項目(17)災害に関する危機意識向上の指導は適切に行われている。
  - ・項目(19)公共物の使用やリサイクルに努めている。
- 2 項目別に細かくみていくと次の項目で「C」あまりあてはまらないとの回答もあり,改善工夫が必要であると思われる。
  - ・項目(1,3,4)保険行事保保健行事等スムーズに運営されている。また,学校保健委員会・生徒保健委員会の活動の上,学校全体で生徒の健康教育推進に取り組んでいる。保護者及び医療機関との連携が図られている。
  - ・項目(7)栄養・睡眠など基本的な生活習慣の指導と実践に努めさせている。
  - ・項目(8)喫煙防止及び薬物乱用防止の啓発がなされている。
  - ・項目(11)生徒の自主性を生かした体育的行事が行われている。
  - ・項目(12)人権尊重の視点に立ち,保健・安全指導に努めている
  - ・項目(14)生徒職員が一体となり,塵の分別収集に努めている。

### 2. 改善策及び今後の在り方・方向性等

- 1 良い評価だった項目についてはさらに継続して取り組んでいきたい。
- 2 改善を要する点についての今後の在り方・方向性
  - ①基本的な生活習慣の乱れに起因する保健室来室者へは,個別に対応していくようにする。また,関係組織・関係機関との連携を図りつつ,保健部の活動の活発化を図る。
  - ②環境美化に対する意識はかなり高まっているが,日常生活における清掃の徹底及びゴミ分別に対する学校全体への注意喚起が必要である。また,ゴミ分別・リサイクル講習を来年度も実施して意識向上を図っていく。

## 5- 教職員自己評価集計結果

総合判定 合算(A+B)

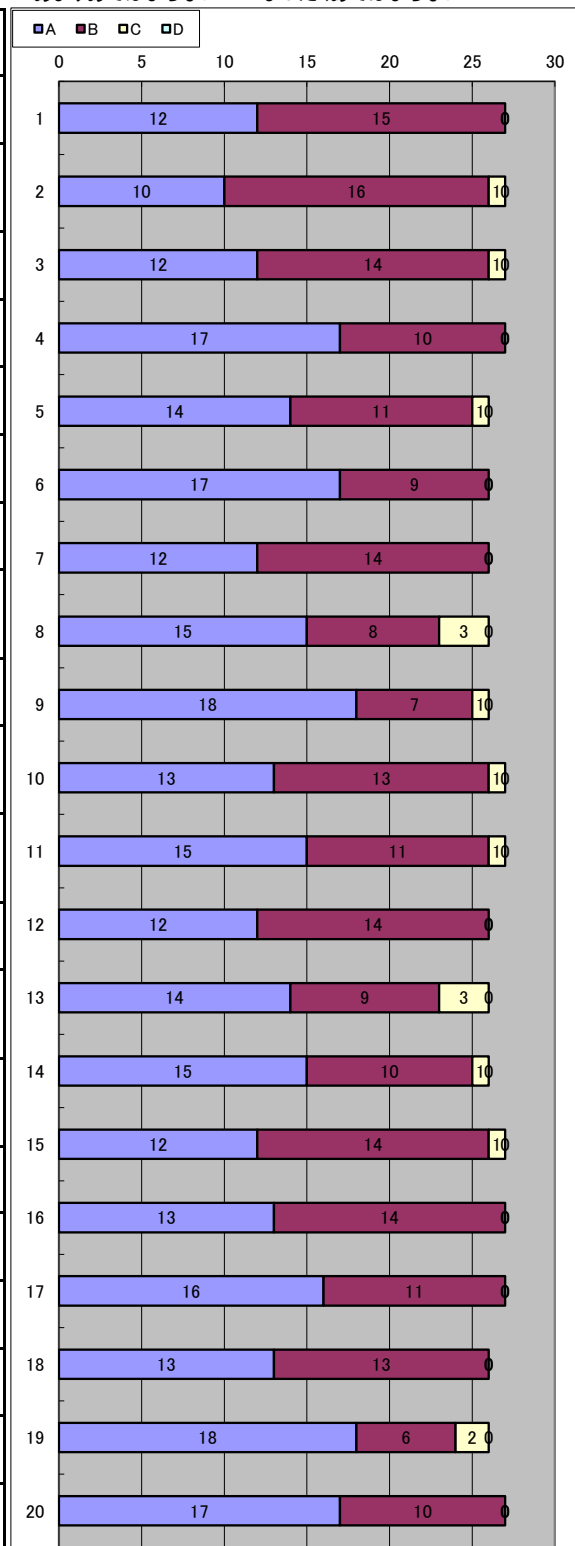
◎=80%以上 △=79~50% ×=49%以下

A=よくあてはまる

B=ややあてはまる

C=あまりあてはまらない D=まったくあてはまらない

番号	診断項目	回答数(人)				総合判定
		A	B	C	D	
1	本校の課題を十分認識し、その解決のために日ごろの教育活動を積極的に進めている。	12	15	0	0	◎
2	社会変化に対応するため、教育に関する提言や地域の意見等の情報を積極的に収集し、その理解・解決に努めている。	10	16	1	0	◎
3	各種研修会に意欲的に参加し資料を参考にするなど、自己研鑽を行っている。	12	14	1	0	◎
4	勤務の厳正化や服務規律の遵守について自覚して努力している。	17	10	0	0	◎
5	年間指導計画について教科で話し合ったものを生徒に提示し、計画的に授業を行っている。	14	11	1	0	◎
6	学力の実態に即し、教材研究・授業方法の工夫・改善を図っている。	17	9	0	0	◎
7	生徒の反応や意見を十分把握し、分かる授業を行っている。	12	14	0	0	◎
8	予習・復習や課題の内容についてはその妥当性を検討するとともに、実施状況や提出状況を常に点検し、指導の徹底を図っている。	15	8	3	0	◎
9	始業ベルと同時に授業を開始して、授業時間確保と生徒の授業態度の指導に努めている。	18	7	1	0	◎
10	一人一人の生徒の状況(学力・健康・心情・環境等)を把握するとともに、常に状況を観察して生徒理解に努めている。	13	13	1	0	◎
11	欠席・遅刻・早退、生徒の安全(事故・いじめ等)に対する状況を絶えず把握し、必要に応じて保護者と連絡を取っている。	15	11	1	0	◎
12	学習記録表等を活用して、学習の習慣化の指導に努めている。	12	14	0	0	◎
13	特別教育活動(LHR・学校行事・生徒会活動等)に計画的に取り組ませ、生徒個々の活動についてもきちんと把握している。	14	9	3	0	◎
14	学級経営や授業の実践は学校の経営方針に従い、生徒の実態や保護者の願い・希望を十分踏まえながら行っている。	15	10	1	0	◎
15	各学年の進路指導計画に従って、生徒および保護者に情報を与え、的確な進路指導を行っている。	12	14	1	0	◎
16	生徒指導の方針をよく理解して生徒にきちんと説明し、日常の風紀指導に努めている。	13	14	0	0	◎
17	保健部の方針をよく理解し、清掃活動は生徒と共に取り組んでいる。	16	11	0	0	◎
18	学級に関する公簿の記入、管理は正確・適正に行っており、学級の施設・備品等の管理も適切に行っている。	13	13	0	0	◎
19	正・副担任でお互いに生徒に関する指導の経過や情報を伝え合い、常に協力して学級経営を行っている。	18	6	2	0	◎
20	校務分掌では自分の係の内容を把握し、工夫・改善しながら企画・運営に積極的に取り組んでいる。	17	10	0	0	◎



# 学校評価集計結果の分析・考察及び改善策の検討

平成29年度

## 教職員自己評価

### 1. 集計結果の分析・考察

#### [全体的な傾向]

昨年引き続き、総合判定は、すべての項目で◎となっている。ほとんどがA・Bの評価である。Aの評価で見ると、2の項目が10で最も少ない。また、8と13の項目でCの評価が3で最も多かった。

#### [Aの評価の少ない項目の分析・考察]

2の（社会の変化への対応・教育に関する提言や地域の意見の収集及び理解）は設問のイメージするものが理解しづらかったのではないかと、または、そこまでの対応は現実無理ではないかと思った職員も多かったのではないかとと思われる。ただ、生徒数が少なくなっていく中で、地域の意見を収集し生徒募集につなげてく必要性は今後さらに高まっていくだろう。

### 2. 改善策及び今後の在り方・方向性等

#### [改善策]

8の項目（課題の妥当性検討・提出状況の点検・指導）については、課題の量・質については、部活動等とのバランスもあり、加えて、生徒の個人差はあるものの、様々な理由や事情で、提出状況のよくない生徒もいる。このため、教員が苦慮している様子がうかがえる。

13の項目（LHR等特別教育活動への計画的取り組み）については、現在のところ主に担任または携わっている係でないと評価しづらい内容である。

担任だけ・係だけの仕事とならないよう、職員全体で考え、フォローし、支えあっていくような、連携した教育活動を目指していくべきだと考える。また一方では、仕事を公平に分担できるような体制の構築も図っていくべきではないか。

#### [その他の項目の今後の在り方・方向性] ※評価の高いものについて

9の授業時間の確保と授業態度の指導に関しては、授業の質的向上、全人的教育を重く見る教員の意識が表れたものと見ることができる。時間の区切りを意識させることは、メリハリの利いた学校生活の送るための根幹をなしている。

19の正副担任の協力に基づく学級経営に関しては、常に意見を交換し、生徒の変化にも即応するべく、情報の共有化を、正副担任が、加えて、学年団としても密に行っている、その証左と言えよう。このような自然な気の流れとも言うべき、言葉のキャッチボールが、本校の校風、教育活動を下支えしている。

### 6- 生徒学校生活集計結果(1年)

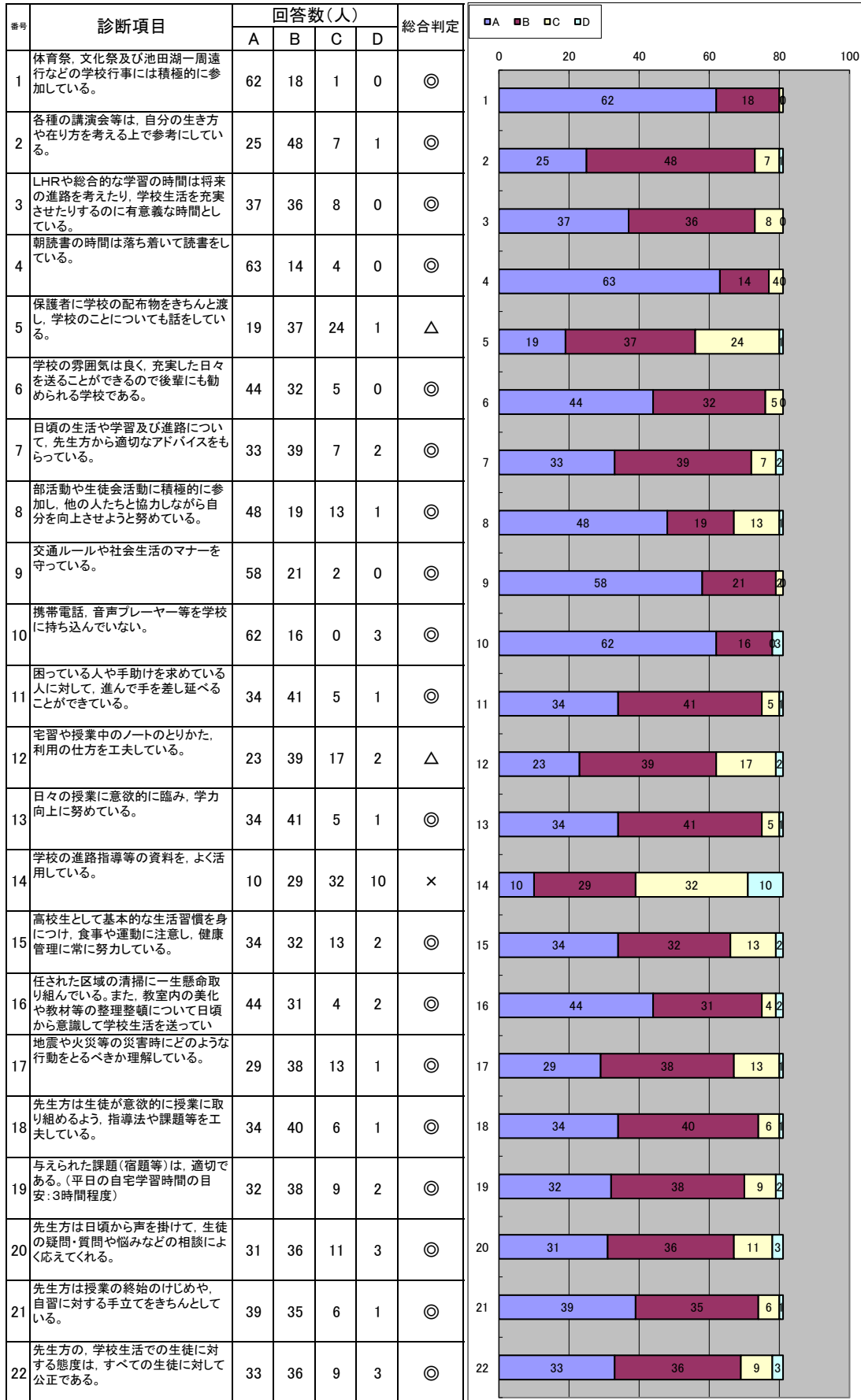
総合判定 合算(A+B)

◎=80%以上 △=79~50% ×=49%以下

A=よくあてはまる

B=ややあてはまる

C=あまりあてはまらない D=まったくあてはまらない



# 学校評価集計結果の分析・考察及び改善策の検討

平成29年度

## 1 学年

### 1. 集計結果の分析・考察

#### 1 学校行事・特別活動に関する評価（番号1～8）・・・△1

全ての項目において概ね良好な回答であった。ただし「5：保護者への配布物や学校の様子を伝えること」が3割、「8：部活動や生徒会活動の積極的参加」が2割の生徒がCかDと評価した。

5については、PTAの出席状況を鑑みると配布物は渡していても保護者が忙しくて、学校の様子を伝える時間が無い可能性もあり、8については、活動内容にもよるので、高校生として良好な傾向である。

#### 2 行動規範・行動倫理に関する評価（番号9～11）・・・全て◎

9割を超える良い評価が得られており、Dと答えた数は少ない。守ろうという意識は、かなり高い。他人に迷惑をかけるようなことは少ないので、このまま頑張ってもらいたい。

#### 3 学習・進路意識に関する評価（番号12～14）・・・△1，×1

「12：宅習やノートの工夫」は、2割、「14 進路指導資料などの活用」については、過半数以上がCとDである。その反面、「13：日々の授業への意欲」は高い。授業を受けることで満足し、自ら学ぶ姿勢が不足している。多様化する入試に対して、受験科目を知ることなど準備ができていない。

#### 4 保健・安全面に関する評価（番号15～17）・・・全て◎

「16：清掃・美化」については高い評価が得られたが、「15 基本的な生活習慣と健康管理」と「17：災害時の危機管理」については2割超の評価が低い。15は具体的に何が不足しているか分からないが、保護者の送迎で登校の様子から、生活時間の乱れや弁当購入者は好き嫌いを容認されて偏った食生活になっている可能性がある。17は、小学生の頃から訓練を受けているが、他人事のように受け止めているのではなかろうか。

#### 5 指導に関する評価（番号18～22）・・・全て◎

全ての項目において概ね良好な回答であった。5項目の中で「18：指導法や課題などの工夫」「21：授業のけじめや自習の手立て」は90%を超える生徒が良いという回答をした。しかし、「19：適切な課題」「20：生徒への声かけ」「22：全ての生徒への公正な態度」については1割を超える生徒が不満を持っている。全ての項目についてもわずかではあるが“まったくあてはまらない”と答えており、指導への不信を持っている生徒がいる。

### 2. 改善策及び今後の在り方・方向性等

- ・学習習慣が身につけていないために、課題が済まない生徒については、放課後、決められた時間内で学校で宿題を済ませてから帰るように声をかける。部活との兼ね合いが難しい。顧問との連携が必要である。
- ・指導への不信を持っている生徒が、少数いる。現在は、少数だが増えていきやすいので教育相談等を通して、教師と生徒が話をする機会を増やす努力が必要である。指導内容の整合性が必要であれば、なぜ、指導を受けるのかを生徒に理解させるような説明が必要である。
- ・真面目ではあるが、行動が受け身である。全体的に良好であるが、自ら考え行動する意識が高まれば、各項目のC・Dを選択した生徒の行動が変化すると思われる。失敗しても間違っても良いから行動させるためには、指導の工夫が必要であろう。

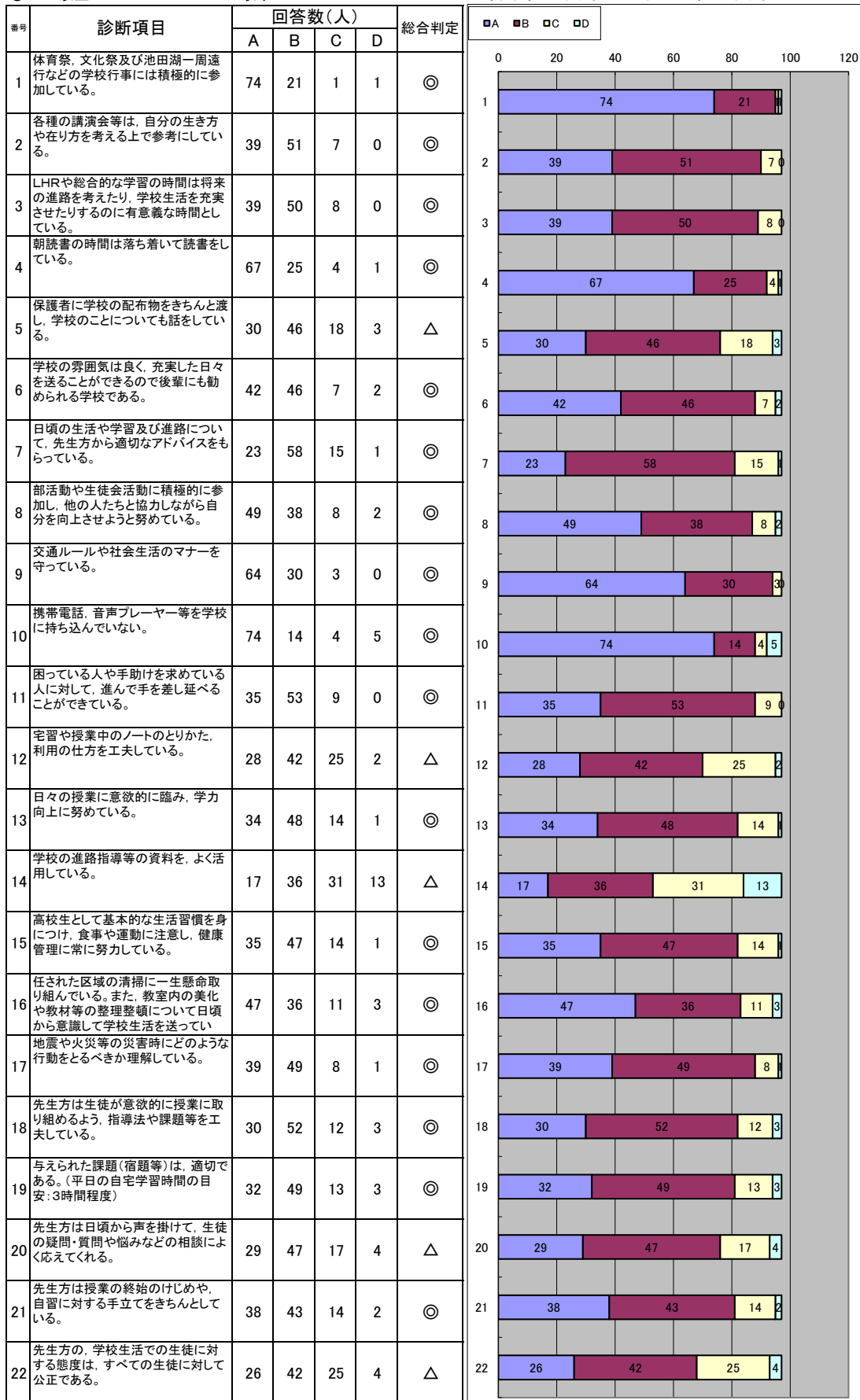
## 6- 生徒学校生活集計結果(2年)

総合判定 合算(A+B)

◎=80%以上 △=79~50% ×=49%以下

A=よくあてはまる B=ややあてはまる

C=あまりあてはまらない D=まったくあてはまらない



# 学校評価集計結果の分析・考察及び改善策の検討

平成29年度

## 2 学年

### 1. 集計結果の分析・考察

#### 1 学校行事・特別活動に関する評価（番号1～8）・・・◎7, △1

概ね良好な回答であった。ただし「5：保護者への配布物や学校の様子を伝えること」については総合評価△であった。内訳はC19%, D3%であり、1年時のC18%, D1%より悪化している。悪化の原因は、元々忘れ物が多い学年であったため、配布物を持ち帰ることを忘れていたり生徒と保護者間のコミュニケーションが不足しており、学校の様子を話す機会が無いことなどが考えられる。

「7：日頃の生活や学習及び進路について、先生方から適切なアドバイスをもらっている」についてはC・D併せて16%が否定的な解答をしている。

「6：学校の雰囲気は良く、充実した日々を送ることができるので後輩にも勧められる学校である」については総合評価◎である。

#### 2 行動規範・行動倫理に関する評価（番号9～11）・・・全て◎

「10：携帯電話、音声プレーヤー等を学校に持ち込んでいない」についてはC・D併せて9%であるが、このアンケートでは持ち込み許可を得ている生徒も含まれている。

#### 3 学習・進路意識に関する評価（番号12～14）・・・◎1, △2

全体的にあまり良い評価が得られていない。

「13：日々の授業に意欲的に臨み、学力向上に努めている」は総合評価◎であるのに対し、「12：宅習や授業中のノートのとりかた、利用の仕方を工夫している」は△である。これは授業は積極的に受けるが、その授業の記録を自分なりに残したり、復習したりしてはいないということである。与えられたことはやるが自分で考えて主体的に行動しないという本校生の特徴が出たものと考えられる。

「14：学校の進路指導等の資料を、よく活用している」についてはC・D併せて45%である。進路資料室など設備は整っているが、活用の仕方がわからないということである。授業やLHRなどで進路資料室をもっと積極的に活用して、進路目標が決定している生徒だけではなく、進路の定まっていない生徒、あるいは進路について悩んでいる生徒に対して、進路決定のきっかけ作りに使えることを学習させる。

#### 4 保健・安全面に関する評価（番号15～17）・・・全て◎

「15：高校生として基本的な生活習慣を身につけ、食事や運動に注意し、健康管理に常に努力している」と「16：任された区域の清掃に一生懸命取り組んでいる。また、教室内の美化や教材等の整理整頓について日頃から意識して学校生活を送っている」の評価はほぼ昨年と同様であったが、「17：地震や火災等の災害時にどのような行動をとるべきか理解している」については避難訓練や実際の地震の避難経験から理解が進み、A・B併せて91%と昨年より12%改善している。

#### 5 指導に関する評価（番号18～22）・・・◎3, △2

「18：先生方は生徒が意欲的に授業に取り組めるよう、指導法や課題等を工夫している」、  
「19：与えられた課題（宿題等）は、適切である」、  
「21：先生方は授業の終始のけじめや、自習に対する手立てをきちんとしている」は総合評価は◎であるが、3項目とも30%以上の生徒がAとしている一方で、16%程度の生徒が否定的な回答をしている。

「20：先生方は日頃から声を掛けて、生徒の疑問・質問や悩みなどの相談によく応えてくれる」は22%が否定的、「22：先生方の、学校生活での生徒に対する態度は、すべての生徒に対して公正である」は30%が否定的な回答をしている。この2つの項目に関しては、1年時と比べても悪化しており、生徒に対する対応に不公平感を持っていることがわかる。

### 2. 改善策及び今後の在り方・方向性等

2学年生は集団としてのまとまりがあり、指導には素直に応じてくれる生徒達である。この特長を活かし、今後は今以上に個に応じた指導を心がけ、一人一人を大切にしながら進路指導・生徒指導に努めることで、個々の能力を高め、自主的行動を引き出すことが必要である。

また、指導に関する不満の解消に関しては、生徒とのコミュニケーションや職員同士の連携をもっと充実させて、生徒の進路目標達成に向けて、より効果的な指導の仕方を考えていく必要がある。

## 6- 生徒学校生活集計結果(3年)

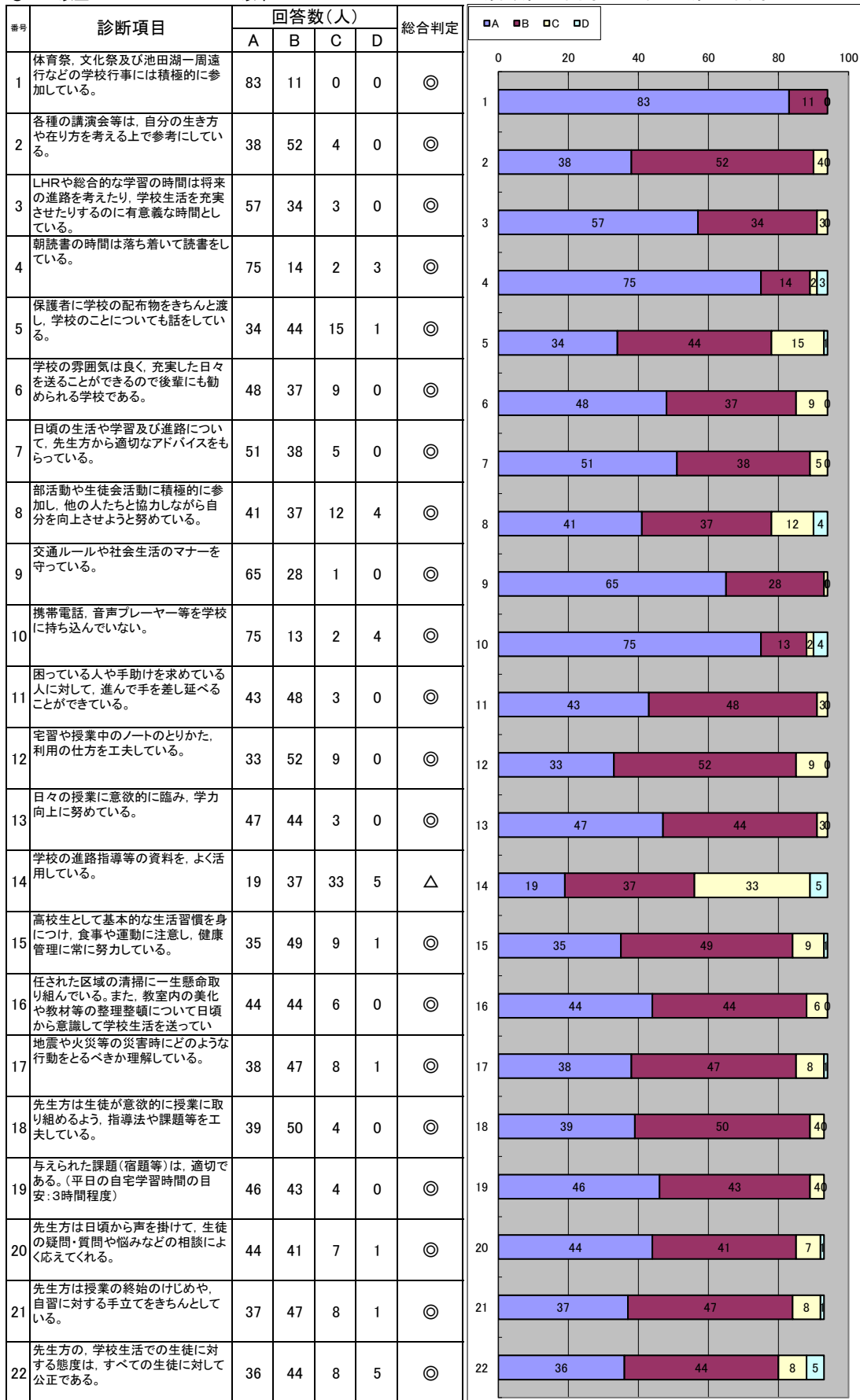
総合判定 合算(A+B)

◎=80%以上 △=79~50% ×=49%以下

A=よくあてはまる

B=ややあてはまる

C=あまりあてはまらない D=まったくあてはまらない





# 学校評価集計結果の分析・考察及び改善策の検討

平成29年度

## 3 学年

<b>1. 集計結果の分析・考察</b>
<p><b>1 学校行事・特別活動に関する評価（番号1～8）</b>・・・・・・・・すべて◎</p> <p>1「学校行事への積極参加」の項目は、昨年と同様「◎」であり、2学年であったときよりもAと答える生徒が増え、昨年度と比べてもCがおらず高評価であった。</p> <p>2「講演会」の項目はDがないものの、Aが減りBが微増しており、昨年度以上に講演会が多かったことによる価値の意識づけが弱まったのではないかと考えられる。今後、講演会にあたっての意味づけを効果的に行っていけるとよい。</p> <p>3「LHR・総合的学習」の項目について、B・C・Dの人数が大幅に減り、Aが増加したことを見ても進路意識の向上が見られる。</p> <p>5「配布物」の項目についてはAと比べ、B・C・Dの合計数が多いため、配布物に対する家庭での共有意識を生徒に徹底させる必要があった。</p> <p><b>2 行動規範・行動倫理に関する評価（番号9～11）</b>・・・・・・・・すべて◎</p> <p>全てにおいて◎ではあるが、10「携帯電話・音楽プレーヤー」の項目についてDが4名いる。今年度・来年度以降を踏まえ指導の徹底が必要となる。</p> <p><b>3 学習・進路意識に関する評価（番号12～14）</b>・・・・・・・・◎2, △1</p> <p>昨年度の評価と比較して、大幅に意識向上が図られた。</p> <p>12「宅習やノートの活用」について、昨年は「△」、今年は「◎」。学習の定着ができている結果である。</p> <p>13「学力向上の意識」は質問項目の変更が今年から行われたが、97%の生徒がA・B評価をつけており、意欲を持って学習に取り組んでいることが分かる。</p> <p>14「進路指導資料の活用」については、昨年と比べて上方への変化は見られたものの、毎年評価の低い項目であり、学年全体としても考えなければならない。特に大学・短大・専門学校・就職で悩んでいる生徒への声かけはもちろんであるが、総合的学習の時間を上手に活用していきながら進路指導部との協力態勢を作り資料の活用や進路相談等を積極的に行うような仕掛けを作っていく必要がある。</p> <p><b>4 保健・安全面に関する評価（番号15～17）</b>・・・・・・・・すべて◎</p> <p>昨年度△だった15・17も◎へと変化。保健・安全への意識向上が見られる。</p> <p><b>5 指導に関する評価（番号18～22）</b>・・・・・・・・すべて◎</p> <p>22「教師の公平性」のD評価が微増していることが気になる。他項目の評価が高いので、これからも「生徒のために」という気持ちを持って「生徒と教師の信頼関係」を更に向上させていけるよう指導に取り組んでいきたい。</p>
<b>2. 改善策及び今後の在り方・方向性等</b>
入学時は学習能力の幅が広いことに加え、集団を引っ張る力強いリーダーシップをとる生徒は見られなかった。しかし、集団のまとまりはあり、指導には素直に応じてくれる生徒達であった。だからこそ、職員団の連携・工夫を通し、生徒自身がまず考え動く姿勢を養うための方策を実践していく姿勢を持つことを念頭に置いた。そして個々の特性を生かす具体的な方向性を示しながら、粘り強く指導を続けてきた。そういったことから、一つ一つの行事を通して成長が見られた学年でもある。卒業まで残りわずかであるが、この姿勢を継続し、生徒一人一人の目標実現に向けて教師一人一人ができることを最後まで進めていきたい。そして、そのことを契機として次の指高生の獲得へと繋げていきたい。

## 7- 保護者評価集計結果(全体)

総合判定 合算(A+B)

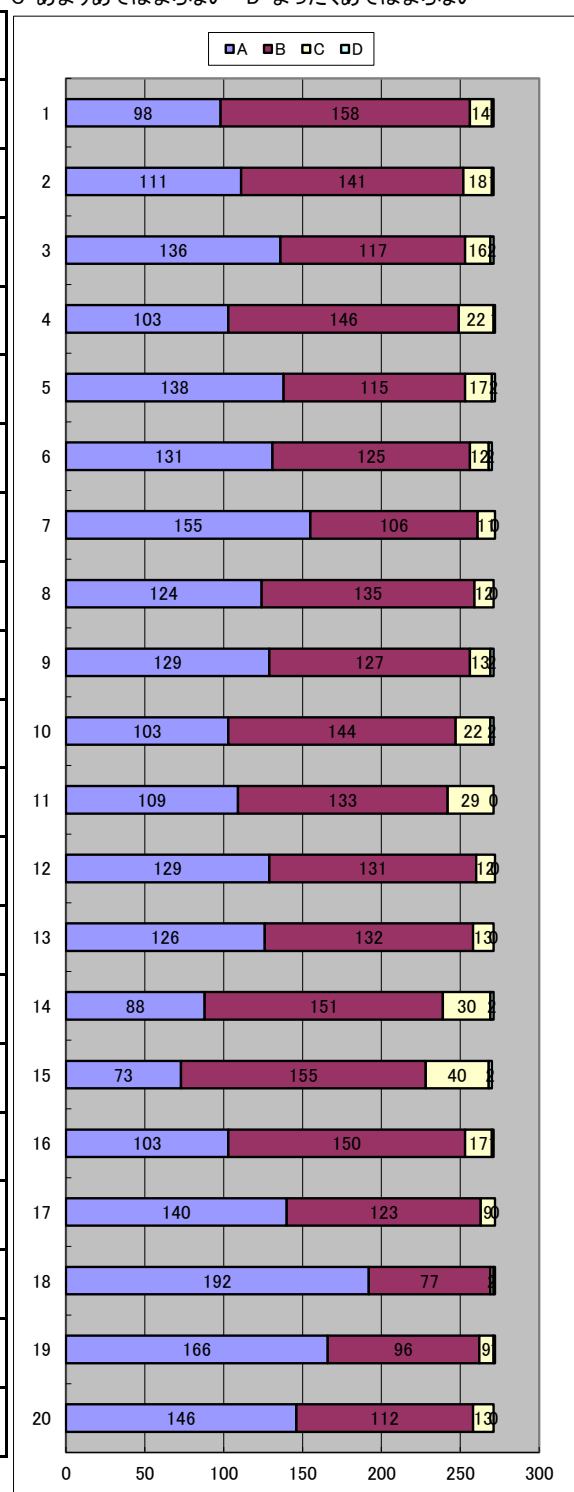
◎=80%以上 △=79~50% ×=49%以下

A=よくあてはまる

B=ややあてはまる

C=あまりあてはまらない D=まったくあてはまらない

番号	診断項目	回答数(人)				総合判定
		A	B	C	D	
1	教育方針・目標について保護者に十分説明がなされている。	98	158	14	1	◎
2	「柏葉通信」等広報活動が良くなされており、学校の様子がよく分かる。	111	141	18	1	◎
3	生徒の動静(欠席・遅刻・早退)等について、互いの連携はよくとれている。	136	117	16	2	◎
4	PTA活動等を通して学校と保護者の協力体制が機能している。	103	146	22	1	◎
5	職員は熱意を持って適切な言動・態度で対応してくれる。	138	115	17	2	◎
6	生徒と教師の信頼関係に基づいた適切な指導が行われている。	131	125	12	2	◎
7	服装・髪型・あいさつなどきちんと指導がなされている。	155	106	11	0	◎
8	生徒は交通ルール、乗車マナーを守って通学している。	124	135	12	0	◎
9	部活動に力を注ぎ、生徒の心身の鍛錬・育成に努めている。	129	127	13	2	◎
10	職員のチームワークが良く、指導に信頼が置ける。	103	144	22	2	◎
11	生徒一人一人を大切に、個に応じた学習・進路指導がなされている。	109	133	29	0	◎
12	進路だよりや講演会等を通じて進路情報が適切に提供されている。	129	131	12	0	◎
13	進路実現のために、授業・課外等を通じて学力向上が図られている。	126	132	13	0	◎
14	学習内容及び課題の量は適切である。	88	151	30	2	◎
15	学習と部活動の両立がうまくなされている。	73	155	40	2	◎
16	生徒の健康保持・増進に向けた指導が適切に行われている。	103	150	17	1	◎
17	環境美化に努め、校内・学校周辺の清掃が適切になされている。	140	123	9	0	◎
18	文化祭・体育祭・遠行など諸行事に生徒が積極的に参加している。	192	77	2	1	◎
19	指宿高校には友人が多く、良い刺激を受けている。	166	96	9	1	◎
20	教育活動を推進するに当たり、生徒・保護者の人権に配慮がなされている。	146	112	13	0	◎



# 学校評価集計結果の分析・考察及び改善策の検討

平成29年度

## 保護者

### 1. 集計結果の分析・考察

#### ○回収率

全体の回収率は、98.6%だった。(昨年度は、97.7%)  
回収率は、例年と同様に高かった。

#### ○評価の全体傾向

各学年ともAとBの評価が多く、すべてが◎だった。  
15(学習と部活動の両立)の項目がC・Dがやや多かった。

#### ○項目ごとの集計

< A, Bの合計が多いもの >

18. 文化祭・体育祭・遠行など諸行事に生徒が積極的に参加している。(269人)

17. 環境美化に努め、校内・学校周辺の清掃が適切になされている。(263人)

19. 指宿高校には友人が多く、良い刺激を受けている。(262人)

7. 服装・髪型・あいさつなどきちんと指導がなされている。(261人)

12. 進路便りや講演会等を通じて進路情報が適切に提供されている。(260人)

5項目とも、昨年度と同様、評価が高かった。総じて指宿高校生は基本的な生活習慣が確立されており、有意義な学校生活を過ごしていると保護者も感じておられるようである。

< C, Dの合計が多いもの >

15. 学習と部活動の両立がうまくなされている。(42人)

14. 学習内容及び課題の量は適切である。(32人)

11. 生徒一人一人を大切に、個に応じた学習・進路指導がなされている。(29人)

10. 職員のチームワークが良く、指導に信頼がおける。(24人)

合計数は減少したものの、評価の低い項目は昨年、一昨年と変わらない。  
生徒の学力差も大きく、個々の指導が難しくなっている現状がある。しかしながら、進学校としての学力向上、生徒が希望する進路実現への期待も高く、相応の課題を課さねばならず、生徒によっては対応しきれない状況も見受けられ、部活動との両立に苦慮していると思われる。

10については、保護者の信頼が高まるよう、なお一層チームワークをよくして教育活動に取り組んでいきたい。

### 2. 改善策及び今後の在り方・方向性等

○ 放課後は生徒が部活動に取り組めるように、部活の時間帯を保障することを教職員間で再確認する必要があると考える。学習と部活動の両立については、それぞれの教科で指導法を話し合い、学力差に応じた少人数指導、その適正なクラス分けを考えていく。しかし、生徒数減に伴う職員の定数減もあり、対応は容易ではない。

○ また、学習と部活動の両立については、教科、部活動の担当者間の連携を図り、下校時間の厳守、土日の過ごし方など、時間の使い方の指導も行う。また各教科間では、課題の量の調整を適宜行う。本当に課題の量が調整されているのか生徒の記録する『向上の道』をもとに、再評価する必要があるが職員の多忙化から、対応は容易ではない。

